

会 議 録

会議の名称	第25期東村山市青少年委員の定例会（第10回）				
開催日時	平成26年1月23日（木）午後7時00分～9時00分				
開催場所	いきいきプラザ4階 教育委員会室				
出席者 及び欠席者	<p>●出席者：</p> <p>（委員） 藤澤功明会長・森田明美副会長・小島恵子委員・児玉光昭委員 多田啓子委員・鈴木史秋委員・宮崎貴幸委員・横田昇委員 横山大吾委員・渡邊いつ子委員</p> <p>（市事務局） 曾我教育部長 社会教育課：平島課長・片桐係長・川崎</p> <p>●欠席者：</p> <p>（委員） 木村一樹委員・谷橋由樹委員・夏梅智仁委員・山本智治委員</p> <p>（市事務局） なし</p>				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合はその理由	/	傍聴者数	なし
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 青少年委員会長 挨拶 2 教育部長 挨拶 3 協議事項 4 活動報告 5 今後の活動予定 6 事務連絡 				
問い合わせ先	教育委員会教育部社会教育課社会教育係 担当者名 片桐・川崎 電話番号 042-393-5111（内線3515） ファックス番号 042-397-5431				
会 議 経 過					
<ol style="list-style-type: none"> 1 青少年委員会長 挨拶 2 社会教育課長 挨拶 3 協議事項 平成26年度「輝け！東村山っ子育成塾」事業計画（案）等 <ul style="list-style-type: none"> ●平成26年度「輝け！東村山っ子育成塾」事業計画（案）について、検討を進めていきたい。郵送された資料の説明を願う。 ●（資料をもとに説明した。） <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動に関する最近の記述の中では、次のようなものがある。 ・他者への共感や日本人としての心の成長、個人や社会の歴史の形成につながっていく。また、自然や人とのかかわりの中で命の尊さについて学ぶことができる。 ・先人や周辺の人たちの知恵をいかに結びつけ、子どもたちの体験の機会をいかに提供できるかが重要な課題である。 ・時代の変化とともに青少年の「体験」が変化するのは当然のことであるし、必要なこと 					

でもある。

- ・体験の過程の中で起こるさまざまな経験こそが人を育てる。
- ・以上のような記載があり、体験活動の意義を再認識し、どのような活動を行ってきたか再確認するために、昨年末に輝け！東村山っ子育成塾のこれまでの活動実績を集計した資料等をお送りした。
- 輝け！東村山っ子育成塾は、「いのちの大切さを知り、ともに生きる！」を年間活動テーマとして、実施してきた。
- ・これまでの活動の中では、正福寺の屋根のふき替え作業など滅多に行うことのできない体験活動も行うことができた。これらは、体験した子どもたちにも、心に残っている内容であると感じている。また、近年では、本育成塾のリーダーも育っており、市の活動にも積極的に参加し、きちんと活動している。我々青少年委員は正しい活動ができていると感じることもできる。
- ・今後も、年間活動テーマである「いのちの大切さを知り、ともに生きる！」のもと、このような体験活動を取り組んでいきたいと考えている。
- ・事業を行うと運営面や子どもたちの安全面に注力するあまり、子どもたちへのこのテーマの伝達が弱くなってしまったことがあった。いのちの大切さ、ともに生きることの大切さを、活動を通して、より具体的に子どもたちに伝えていくようにしていきたい。
- ・10年間考えながら活動を行ってきた。改めてこれまでの活動を振り返り、原点に戻って、我々自身が、本育成塾を実施した契機を見つめなおし、きっかけとなった事件を風化させないよう、噛み砕いて、子どもたちに伝えていきたい。
- 平成25年度の計画案は、日時と内容を先に決めてテーマを決めたが、平成26年度の計画案に関しては、活動テーマを先に決めたい。
- ・活動テーマを設定してから、そのテーマごとに、内容、日時等の詳細を決めたい。そのため、回数や案を複数検討していただくようにしたいと思うが、よろしいか。
- ・また、来年度の事業計画案に関しては、担当者任せにせず、定例会の会議の中で、全員で協議していきたいと思うが、よろしいか。
(異議なく了承された)
- ・それでは、体験活動の中で、必要であると思われる活動内容を聞きたい。
- 東村山市の状況や歴史を知るために、自然体験や郷土体験は欠かせないと思う。
- 近年回数は少なくなったが、福祉体験は、生命に関する上で必要であると思う。
- 保育体験では、参加者の子どもたちの幼児たちへの優しさを感じることができると、必要であると思う。
- 日程の都合上、これまでなかなか参加できていないが、保育体験は参加したい活動である。
- 先ほどの体験活動の最近の記述の中で紹介されたが、体験活動とは、その内容が知らないうちに身についてくるものであると思う。よって、参加者とは異なる世代と接する世代間交流は必要であると思う。
- ・リーダー企画も前後半で2回くらいあると、日程の都合上参加できていなかったリーダーも参加できるようになるのではないか。
- 以前に世代間交流で、大人数で伺ってしまったため、相手方の施設に負担がかかってしまったケースがあった。
- 施設に伺うことになるのであれば、人数を分散させて、大人数にならないように配慮するようにしたい。
- 市制施行50周年の節目を迎えるため、50周年にちなんだ活動を行いたい。
- 保育体験は、普段できる機会が少ないため、必要である。
- テレビの報道でも、防災に関連するニュースをよく目にする。より身近に感じられるよう、また、非常事態が発生した際にパニックにならないよう、防災体験は必要である。
- みんなで協力してものをつくる、ものづくりの体験が必要でないかと思う。これは、作成内容によって、体験活動の種類が異なることになると思う。
- 以前は白州山の家で使用するものをつくった経過がある。市で必要なものがあれば、検討しても良いのではないか。
- 大きなものは良い思い出にもなるのではないか。
- 1回で終わるのではなく、将来役に立つ可能性のある手話のような福祉体験は必要である

と思う。

- バス車内ならではの取組もできるバス研修は必要である。
- 施設等の予約の都合上、白州一泊キャンプ及びバス研修の実施については、平成 25 年度と同時期に行うようにしたいが、よろしいか。
(異議なく了承された)
- リーダー企画、50 周年にちなんだ活動及びものづくりの体験に関しては、郷土体験等の中で実施できるようにしたらどうか。
(異議なく了承された)
- これら以外に出された体験活動案、自然体験、郷土体験、福祉体験、世代間交流（保育体験）、防災体験及びバス研修について、内容検討をしていきたいと思うが、よろしいか。
(異議なく了承された)
- 各体験活動ごとに担当委員を振り分けたい。各委員、担当したい活動を 3 点挙げていただきたい。本日欠席している委員については、事務局と調整して、追って連絡する。
(協議調整の上次のように決定した)
- 自然体験 : 小島委員・多田委員・横田委員
郷土体験 : 鈴木委員・横山委員
福祉体験 : 児玉委員・宮崎委員・横田委員
世代間交流（保育体験） : 多田委員・横山委員・渡邊委員
防災体験 : 児玉委員・渡邊委員
バス研修 : 小島委員・鈴木委員・宮崎委員
- 次回定例会までに、各体験活動ごとに、内容、時期、回数を複数案提示していただきたくよう願います。
- 各委員の打合せに関しては、顔を合わせて行うのが一番良い。しかし、時間等の都合を合わせるのが難しい場合も多い。その際は、電話、メール、FAX等を活用していただきたい。
- 繰り返しになるが、年間活動テーマである「いのちの大切さを知り、ともに生きる！」を踏まえた、活動内容の検討をお願いします。

4 活動報告

5 今後の活動予定

6 事務連絡

以 上